

自 己 評 価 表（平成 28 年度）

愛媛県立土居高等学校

教育方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指して、徳・知・体の調和のとれた、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。	重点目標	「学校力」の強化とそのことを活かした生徒の「人間力」の育成
------	--	------	-------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学力・進路保障	確かな学力の定着と進路実現	「分かる授業」の実践に努め、生徒の授業への満足度を 80%以上にする。	B	授業アンケートでは「分かる授業」の実践に対して、生徒の 98%が満足感を示す評価が見られたが、基礎学力の定着という点では課題が見られる。	・ICT機器の活用やアクティブ・ラーニング等を積極的に導入して、基礎・基本の徹底が必要な生徒と、習熟度の高い生徒の双方に配慮した授業を展開していく。
		学習習慣の定着を目指し、学年+1時間の1日平均家庭学習時間を確保させる指導を行う。	D	学校全体の集計では1日平均 70分台であり、どの学年も目標値に届いていない。	・予習・復習の徹底、また適切な量の課題を課すことにより、家庭学習習慣の定着を促していくとともに、学年ごとに家庭学習時間調査を年間通して実施することによって、学習に対する意識や意欲を高めしていく。
		国公立大学、私立大学を含む進学希望者の進学先決定率を 100%にする。	A	・国公立大学に2名が合格し、進学先決定率 100%を達成できた。	・推薦・AO入試だけでなく、一般入試でも合格できる確かな学力を身に付けさせるために、進学補習や個別指導等を充実させていく。
		希望する事業所への就職決定率を 100%にする。	A	・1回目の就職選考で 98.5%が内定し、12 月末の時点で就職希望者 75 名全員が内定をいただいた。	・様々な活動を通して地域に貢献できる人材を育てていくことを目標に、公共職業安定所や保護者との連携をさらに密にして求人開拓に努めていく。また、離職率の低下を図るため、個々の適性や能力に応じた適切な事前指導を行う。

生徒指導・安全教育	基本的生活習慣の確立と安全意識の育成	心身の健康を維持する重要性を継続的に指導しながら、年間の出席率 97%以上を維持する。	B	・2 月末現在で出席率が 98.6%である。昨年よりも欠席が増加傾向にあり、特に1年生で欠席が多くみられた。	・学年またはクラス単位で、「健康観察表」を効果的に活用して日頃からの健康管理に努めるとともに、学校を休まない雰囲気づくりを構築していく。
		身だしなみ指導において、年間合格率 85%以上を目指すとともに、ルールを遵守する意識やマナーの向上に取り組む。	C	・年間合格率は 89%で、身だしなみに関する意識は高い。反面、校則に反する指導件数は昨年度に比べて増加した。	・身だしなみ週間等を活用し、日頃より端正な身だしなみを意識させていく。規範意識の向上については、学年集会、全校集会など様々な場面を利用し高めていく。
		コミュニケーション能力の向上に向け、あいさつのできる生徒 100%を目指す。	B	・授業の前後、職員室の入退室時、教員、来校者に対するあいさつは 98.2%の生徒ができており回答しているが、生徒相互のあいさつは 83%で最も達成率が低い。	・様々な生活場面を利用して、あいさつの習慣化に努めていくとともに、ショートホームルームや全校朝礼、学年集会等、生徒相互のあいさつが不可欠となる場づくりを通して改善を図っていく。
		交通事故発生件数 0 を目指し、交通事故防止に向けた取組を年間 10 件以上行う。	C	・登下校指導、自転車点検指導やホームルーム活動における交通安全教育の実施等、交通事故防止に向けた取組を 17 件行ったが、自転車通学生の登校時における接触事故が 1 件発生した。	・交通事故防止に向けた取組を継続実施していくとともに、ヘルメット着用の一層の徹底を図り、交通マナーアップに向けた啓発活動に努めていく。
豊かな人間性	豊かな人間性・思いやりの心の育成と個性	年間を通して、朝読書を定期的実施するとともに、読書を推奨し、生徒一人当たりの図書貸出冊数を平均 3 冊以上にする。	D	・今年度は、年の大半を図書蔵書の突合作業に費やしたため、図書室の開館日が少なく貸出冊数は目標を実現することができなかった。	・蔵書整理作業の能率化・効率化を図りながら、貸出環境を整備するとともに、朝読書の充実を含めた読書啓発活動の一層の推進を図っていく。
		うるおいのある学校生活を送らせるために、部活動加入率を 90%以上とし、県総体出場生徒数 40 名以上を目指す。	A	・部活動加入率は 94.8%、県総体出場者 40 名であった。陸上部が四国大会出場、野球部ベスト 16 など各部で成績が向上した。	・来年度、国体の綱引き競技へ本校が出場予定であり、また国体補助員 52 名で国体の成功に貢献していく。

・個性の伸長	性の伸長	各生徒が年 2 回以上校外でのボランティア活動に参加し、地域との交流を深め、社会貢献に対する意識を高める。	A	・クリーン愛媛やラブリバーなどのボランティア活動に延べ 675 名が参加し、一人平均 2.1 回となった。	・個人有志のボランティア参加が本年も多く参加できている。この流れを継続していく。
		相手の立場に立った言動の重要性を理解させるなど、いじめ問題の防止に向けた取組を年間 10 件以上行う。	C	・人権・同和教育ホームルーム活動、人権講演会の実施、人権作品の制作等、いじめ問題の防止に向けた取組を 18 件行ったにもかかわらず、いじめ問題が複数発生した。	・いじめ問題の早期発見、未然防止につながるような多面的指導体制の確立を図っていくとともに、生徒との信頼関係の一層の構築に努めていく。
地域との連携・学校の魅力化	保護者・地域との連携と魅力ある学校づくり	P T A 総会（公開授業、講演会を含む）への出席率 50%以上を目指す。	C	・出席率については、公開授業等 25.7%、PTA 総会は 12.8% で前年より 2.1% 微増となった。	・公開授業の時間を増やす一方で、総会の内容の魅力化を図りながら、出席率の向上に努めていく。
		保護者、地域への教育活動の公開日を年間 15 日以上確保するとともに、来校者数の増加を図る。	B	・授業参観を含め、各種講演会・運動会・文化祭等、公開日を 17 日設定し、教育活動の見える化を図ることができた	・保護者、地域に対する公開行事の内容の一層の拡充を図りながら、教育活動への理解と協力を推進していく。
		学校公式ホームページの内容を毎日更新するなど、学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信する。	A	・ほぼ毎日学校内の行事の紹介や情報提供をしており、アクセス数も、1 日平均 510 件から 550 件台に上昇している。	・年度初めのシラバス等のデータの早期書き換えを行うとともに。動画による情報発信に取り組むなど、一層の魅力化に努めていく。
		地元保育園・小学校・中学校等との交流事業を年間 10 件以上確保するなど、連携に努める。	A	・教職員による地元の小学校、中学校において実施された授業研究会への参加や高大連携に基づく講義の実施、またアグリカルチャーコースや家庭クラブの生徒を中心に、地元保育園・小学校、中学校等と様々な体験学習の実施など 14 件の交流活動を図ることができた。	・今後、交流の質の一層の改善や交流事業の多角化を図りながら、連携の一層の強化に努めていく。

※ 評価は 5 段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。